

# チェンマイロングステイまでの道のり

関東甲信越支部 No.1041 中西 岩夫 ひろみ

2012年6月6日

## 自己紹介と目的

中西岩夫(60歳)・ひろみ(59歳)は、ようやくロングステイビザを取得、6月11日からいよいよタイ・チェンマイにて念願の長期滞在を始めます。多くの方の情報やアドバイスで、ここまで来ることができました。今後ご夫婦でロングステイを目指している方の参考になればと、最後の投稿依頼をお受けしました。

過去に投稿された方も、記載しているように、条件や状況が日々変化しますので、あくまで、今現在の個人的な判断と主観と考え、参考(以前の投稿との重複や相違も含め)にしてください。

退職とロングステイを考えるようになったのは、退職まで6年の54歳、仕事の大きな転換期でした。その時の大きな課題は、60歳時の資金計画と家庭内の経費の仕訳でした。私たちの年齢は年金の支給金額も減り支給年齢も基本65歳、使える資金に見合う生活はどんな感じかと、私たちは子供に老後の介護は望めないなど、先行きを大いに悩みました。そして、私たちの予算、性格、生活スタイルと今後の生活を考え、東南アジアに照準を合わせて本やインターネットで調べ始めました。

## 自分たちは何をしたいのか

たまたま『ラシン』という雑誌で、海外でのリタイアメント暮らしとか、年金で生活できる都市とかの本と出会い、またその中で南国暮らしの会を知りました。

2005年に初めて南の会の会合に参加するも、自分たちがどうしたいかを考えていなかったため、居心地が悪いというか、どうしていいかわからず。ロージから気まずい思いで家内と帰った記憶があります。後に、石川さんから「どのような生活をしようと思っているの?それによ

って住む場所や住まいの形態が違うでしょ」その時はピンと来なかったのですが、その言葉は、その後の私達の行動に大きな影響を与えました。

居心地の悪さの解決と、自分が決断するための参考になればと、半年ぐらいたった頃に、コタキナバルロングステイ下見ツアーに何もわからず参加してみたところ、多くの体験をし、また気の合う友人を作ることができました。その後は、サロン会にも参加しやすくなり、チェンマイへの視察の企画が進んでいた時に、自分たちの人生を導いてくれる友人夫妻にも会うことができました。

その後、チェンマイ、バリ、チェンマイ、フィリピン、またチェンマイと、今考えると視察という名の短期旅行を繰り返していましたが、自分たちの生活パターンに合うところはチェンマイかなと思い始め、まずは、ステイ先をチェンマイにと決めてみました。

実に最初2008年2月にチェンマイを視察で訪れてから4年、仕事の合間を縫って、約2週間から3週間ぐらいつつ9回の訪チェ、今年の2月、3月、10回目にして初めての2ヶ月滞在を終え現在に至ります。また6月にチェンマイへ戻り、11月まで170日滞在予定、今回の表題の初のロングステイ開始となります。



花博の写真

## 出会いと南の会

そんな中で東京のサロン会で紹介されたご夫妻にお話をお聞きし、チェンマイでお会いできたこと、バリやフィリピンのツアーで一緒したご夫婦との出会いが、単純に私たちの夢を現実のものと感じさせてくれ、また多くの実践的な情報もいただきました。

その頃には、リタイアメントの預入金や住居、生活費もろもろの判断で、気持ちはタイに決まってきました。と言っても、ロングステイを現実に行っている方は、そんな事を言う南の会の人を、私達含め、たくさん見てきているのでしょう。

そのご夫婦からの質問として

- ① 中西さん本当にチェンマイへロングステイするつもりなの？観光ではないの？
- ② まだ仕事残っているでしょう。どうするの？
- ③ チェンマイに来て何するの？どのあたりに住むの？
- ④ 両親や家、家族の問題は解決しているの？  
等々、課題は山積みで、ありがたい指摘でした。

考えてみたら当たり前です。口ばかりで何も実行できていない短期観光客なのですから…退職してその気がある人や実行力のある方、すぐ行動を起こす人は、最初苦労や失敗しても結構長続きしますね。望んではいるのだけれど、なかなか課題が多くて実行できないよと言っている人は、季節観光客での可能性が高い。そんな経験から、私もそう見られているのだろうなど。そんな私が帰国し、サロン会でチェンマイでの体験談を語るのは結構辛いものがありました。

## まずは、下準備と行動

なにはともあれ目標に向かって、私達の基本は、なるべく自分たちでやってみること。と言っても多くの情報を頂きながらですが、将来自分たちで生活するのですから、当たり前です。情報や条件が出てきたら、原則参加、実行を心がけること。効率は悪くても出来る限りチェンマイを訪れ先輩たちが体験してきたことを行なって見ること。

1. まず視察旅行に多く参加（まだ、人の企画

に相乗り状態)

2. 旅行会社：日本からの航空券の手配しやすい会社を見つけること。
3. 携帯電話の夫婦での購入：当初はワンツーコール、訪問ごとにSIMが変わるので、ツールに変更、300B 入れると一年間番号確保、皆さんと連絡取りやすくなりました。
4. 今は、ミントトラベル(以前はKK トラベル) ジョンさんにアマリリンカムホテルの宿泊依頼、ツアーの依頼
5. みどりさんへ山岳民族支援の衣類の提供
6. チェンマイの各地域のホテルの体験宿泊(どの地域が私達の生活に向いているか?)
7. ヒロ・プロジェクトさんで、コンド4の賃貸(コンドミニアムの体験)
8. コンド4の住所でバンコク銀行へ口座開設(今年2月にはお会いしたのですが、3月でチョンプーさん退職していました)
9. 義肢財団へストッキングの持参と視察
10. 南の会のゴルフの参加とランナーゴルフ場の会員権の購入(30万B手数料)
11. 2つの卓球の会へ参加
12. 日本でのタイ語の勉強と、今回からチェンマイでのタイ語の勉強。タイ料理屋にも口にあうか?よく食べに行きました。
13. 小旅行：以前友人とランパーンの久保田さんのところへ、前はチェンライへバスで
14. その他、ゴールドカードの取得。エンディングノートの作成。日本の家の部屋の改装



ゴールドトライアングルにて

## 最初の失敗

話は前後しますが、2008年2月のチェンマイ視察旅行は、最初から、現地在住の方々の都合にまで考えが及ばず、サロン会の翌週に在住の方の話の聞きたいなどと企画して、南の会チェンマイ在住の方には、大変な迷惑をお掛けいたしました。そんな訪問者のために、有志の方が集まってくださったり、何気なく待っていてご自宅を見せていただいたりと、参加者には大きな収穫と、思い出に残る視察になりました。改めて、感謝とお詫び申し上げます。相手の都合も考えるそんな当たり前のことを学んでのスタートでした。

## 私達夫婦がチェンマイを選んだ理由、そして現在の立地にサービスアパートメントを借りるに至った理由

最初の視察は、チェンマイプラザホテル：価格、パフォーマンスとも繁華街に近く良いと感じました。その次は、現在閉館中のアマリリンカムホテル、滞在中、タイの友人の紹介で、ラティランナー2泊体験宿泊。近隣の宿泊施設見学。アマリには、その後2回宿泊。この時点でチェンマイがほぼステイ先として決定。

将来、両親が住む街を見せておくために、子供3人を同行、ドゥワントワンホテル宿泊。子どもが帰国してから、いろいろな地域4箇所です泊ずつの宿泊体験は結構辛いものがありました。

短期間でもコンドミニアムの体験がしてみた

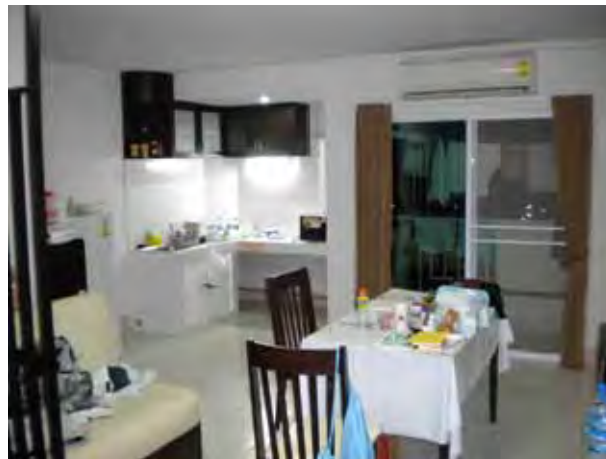
いと、多くの日本人の定宿のコンド4へ3回宿泊。南の会の方や日本人も多く、便利さで言えば、ホイケオ通り、ニマンヘミン境界と実感する。

しかし気楽に生活することがひとつの目的である私は、朝が苦手で、暗いうちに毎朝起床できない。時間に合わせて皆と一緒に待ち合わせることが苦手、ということと、ゴルフも、基本的にはランナーゴルフ場だけのプレーでも問題ないことから、ソントオの手配の要らない（安い路線バスがある（片道15B））チャン・プアック通りにあるアイリスチョウタナを検討しました。住んでから意外だったことは、アイリスチョウタナに今年の1月には84名の日本人が滞在していたこと（南の会は14名ぐらい）。また近くのコンドミニウムには多くの日本人が長期滞在していること。本当にびっくりしました。しかし、このあたりの在住の方は、自分の生活パターンを持っておる方が多く、つかず離れずの良い関係の生活しています。

アイリスチョウタナは上の階は日本人が多く静かなのですが、スタジオタイプはタイ人や近くの大学の生徒が多く、また方向によってはディスコがあるので、部屋を選ぶ必要があるでしょう。私達は今回2月から一年間借りましたので、自分たちで、入口ドアの鍵の交換とドアストッパーをつけました。需要と供給で金額や条件が変わりますが、私達は、一年間12万B（インターネット・電気代・水道代別途）で借りています。



サロン会の写真



コンドの内部写真

## チェンマイでの生活

- ①夫婦ともタイ料理や、現地の市場や、一般のタイ人がまわりにいる生活が、合っていること。生活費や人件費が安い。
- ②夫婦でゴルフをすること（週3回：1回夫婦で1000B：キャディーチップ含む）
- ③家内が卓球が好きなこと（徒歩圏内に卓球場がある。卓球の会は2団体、2～3時間でひとり25B、誰でも参加可、途中参加退出可。空いていれば一時間、一人25B？）
- ④タイ語に興味があること（タイ人とタイ語で話したい、タイ語を読みたい書きたい）

## ロングステイのリスクと課題

- ①家庭内事業仕分け；どのくらいの予算で生活できるのか。
- ②自宅の維持と子供の事
- ③両親の介護と看取り方。仏壇やお墓の管理
- ④ロングステイ先での生活
- ⑤夫婦の価値観
- ⑥自分たちの老後と終活

## リタイアメントビザの取得については

多くの南の会や、インターネットの情報、タイ大使館への問い合わせの結果、私達の条件で最良と考えられるのは、日本での取得でした。チェンマイで夫婦共に80万Bずつ預金していれば、手続きが簡単なようですが、使うことができないお金が80万B預金されてしまうことにリスクを感じ、チェンマイで私だけが取得して、帰国後家内ビザを日本のタイ大使館で申請する方法を実行しようとしたのですが、訪チェのタイミングが悪かったことと、私たちは何回か訪問しているので、①バンコク銀行に80万Bの定期預金を事前においたこと（残高証明書代100B）②アイリスチョウタナの一年契約をしたので、大家さんに在住と契約の証明を帰国前に夫婦のパスポートコピー付きで作成してもらい帰国したこと（無料）。③チェンマイ、ラム病院でリタイアメントビザ用に健康診断書を発行してもらったこと（夫婦2名で200B、この証明で受理されましたが、国立のスワンドーク病

院の方が良いようです）等の準備ができたので、日本で申請することにしました。

あとは、ホームページに詳しく記載されていますので確認してください。記載にはないのですが、国内の保証人に息子のパスポートコピーにサインをさせ持参しました。申請料1人22,000円×2名＝44,000円で翌日発給されました。

6月への準備：①日本で提出した書類のコピー各3部と訪チェ直前に家内の謄本1部を取得し持参して、2ヶ月から3ヶ月の間にチェンマイのイミグレーションに提出予定です。

詳しくは、会報に永島さん、鈴木さん他が記載していますので参照ください。

まあ順調のようですが、準備している間に、家内の両親が亡くなったり、私の父が入院して介護施設か？また年老いた母が今後どうするか？課題は山積しているながらのロングステイ人生です。さてどうなりますか。お楽しみに。

## 最後にお出かけ情報を送っている方への多少なりの確認と誤解（私の誤解も含め）。

- ① 会に連絡すると、ゴルフが簡単にできる：ランナーゴルフ場に各自集合が基本だと思います。ソントオが主要なところでピックアップしてくれるというのは、その時の在住のメンバー次第です。これもタイらしいといえればタイらしいのですが、ランナーのプロモーションは月曜・金曜が基本なのですが、向こう次第で水曜日があったりもします。メンバー1名につきゲストが2名ですから、プリモーション以外の日のプレーはメンバーの在住者が少なければ、ビジター扱いになります。前回2月3月は記載表がカウンターに出されていませんでしたので多くてもゲスト扱いです。3月後半になって出てきました。不思議です。
- ② 南の会の卓球の会というのはありません。在住の方が運営する卓球に加わってプレーさせてもらっています。会の運営は別々に2名の日本人（ナオコさんと石原さん）が曜日を変えて実施しています。
- ③ 食事会：以前は多くの人数で実施していま

したが、基本は有志での実施で、近くの人や同じコンドミニアムの人が集まって開催されることが多いようです。

- ④ **在住者**：2012年2月報告で、現在は15名のロングステイヤーの登録で、(長期の方はCLLにも所属していたり、退会して移った方も多いので)ハイシーズンは季節滞在者含め130名ぐらいに人数が増えると、会としての対応は難しいようです。また各自の人脈で行動しているためか、サロン会の参加者は65名と半分でした。上記のようなことを利用されるのでしたら、知人を作ってから訪問すると上手くいくように感じています。

最後にここまで導いて下さった多くの方に感

謝と今後ロングステイする方にエールを送り締めくくりとさせていただきます。(文中の通貨は1B:2.7円目安です)



タイの友人とムーカタ (焼き肉屋の食事に)